



2024年 5月14日

各 位

会 社 名 株式会社エルアイイーエイチ
(コード番号 5856 東証スタンダード市場)
代表者名 代表取締役社長 福村 康廣
問合せ先 経理部長 下岡 寛
(TEL. 03-6458-6913)

特別損失（減損損失）及び法人税等調整額の計上並びに 2024年 3 月期通期連結業績と前期実績との差異に関するお知らせ

当社は、2024年 3 月期の連結決算において、減損損失及び法人税等調整額を計上しましたの
でお知らせいたします。また、2024年 3 月期通期連結業績（2023年 4 月 1 日～2024年 3 月31日）
と前期実績との差異に乖離がありますので、お知らせいたします。

記

1. 連結決算における特別損失の計上について

(1) 固定資産減損損失の計上

当社グループが展開する教育関連事業等において、経営環境の悪化による収益性の低下
が生じたため、保有する固定資産につきまして、投資額と、投資期間全体を通じた回収可
能額の今後の見通しを比較検討いたしました。検討した結果、回収可能性はないと判断し、
164 百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

(2) のれんの減損損失の計上

連結子会社である株式会社TransCoolにおいて、経営環境の悪化による収益性
の低下が生じたため、計上しているのれんの収益性を検討いたしました。検討した結果、
のれんの回収可能性はないと判断されたため、のれんの減損処理を行い、145 百万円を減
損損失として特別損失に計上いたしました。

2. 法人税等調整額の計上について

今期、資産除去債務の計上を見直した結果、新たに計上した資産除去債務に対して、法人
税等調整額 93 百万円を計上いたしました。

3. 前期実績との差異について

(1) 今期連結実績値と前期実績値との差異（2023年 4 月 1 日～2024年 3 月31日）単位：百万円

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主 に帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前期実績 (A)	17,917	△21	△52	△63	△0 円 85 銭
今期実績 (B)	19,035	△1,525	△909	△1,346	△17 円 98 銭
増減額 (B-A)	1,118	△1,504	△857	△1,282	—
増減率 (%)	6.2	—	—	—	—

(2) 今期個別実績値と前期実績値との差異 (2023年4月1日～2024年3月31日) 単位：百万円

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A)	591	45	65	△49	△0円65銭
今期実績 (B)	599	△659	△130	△1,814	△24円22銭
増減額 (B-A)	8	△704	△196	△1,765	—
増減率 (%)	1.4	—	—	—	—

4. 今期実績値と前期実績値との差異の理由

(1) 連結業績について

営業利益、経常利益及び当期純利益は前期を下回る結果となった主な理由といたしまして、物価高騰による商品原価率の上昇、賃金の上昇や値上げに伴う経費全般の増加、特に広告費用 957 百万円を投入したにも関わらず売上高が大きく変わらなかった結果、営業利益及び経常利益が前期実績を下回る結果となりました。当期純利益につきましては、減損損失 310 百万円や法人税等調整額 90 百万円などの計上も影響し前期を下回る結果となりました。

(2) 個別業績について

営業利益、経常利益及び当期純利益は前期を下回る結果となった主な理由といたしまして、当社の教育関連事業で教材売上原価 507 百万円や広告費用 331 百万円等の投入が影響し、営業利益及び経常利益が前期実績を下回る結果となりました。当期純利益につきましては、関係会社株式評価損 1,031 百万円、貸倒引当金繰入額 434 百万円、減損損失 77 百万円などの計上も影響し前期を下回る結果となりました。

5. 今後の見通し

食品流通事業（食肉卸事業）に関しましては、引き続き精肉における仕入のコストダウンそして売上の増加を目指したいと考えております。

酒類製造事業に関しましては、前期と変わらず成果の予測が不透明な状況ではありますが、経費削減を中心に経営の見直しを行い、黒字転化を必須の目標として経営改革を行ってまいります。

教育関連事業に関しましては、前期と変わらず成果の予測が不透明な状況ではありますが、ビジネスモデルや人員の配置などを見直し、黒字転化を目指してまいります。

以上